

平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・古澤孝市・徳中嗣史・金濱元一・岡田健一・早川昇三・南川達彦・黒光ひさ・鈴木和彦
調査実施年月日	平成29年1月24日(火)
調査先 自治体名等	東京都江東区(南砂 4-3-12)
調査項目	みなみすなこども食堂について
調査目的	みなみすなこども食堂の運営方法と実情について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 506, 402人 258, 132世帯 (平成28年12月1日現在) 高齢化率: 22. 20% 市民平均年齢: 43. 98歳(平成28年4月1日現在) 行政面積: 40. 16km²</p> <p>2 視察内容 (1)みなみすなこども食堂 みなみすなこども食堂は、一般社団法人が運営するボランティアハウスぽかぽかの事業で、毎月第2、第4火曜日に子どもを対象に無料で夕食を提供し、両親が仕事で遅い時の子どもたちを応援する食堂のことであった。また、一人で宿題が出来ない子どもたちについても応援をしているとのことであった。 ボランティアハウスぽかぽかは、食堂、カフェ機能を有した施設で子どもから高齢者までの様々な世代の人たちに地域交流の場や地域の方々に情報提供を行なう事業を行っているとのことであった。</p> <p>(2)こども食堂の概要 ①運営主体: 一般社団法人 扇橋会 ②運営内容: 毎月第2・第4火曜日 16:30~19:30 ③参加費: こども(高校生まで)…無料 おとな…500円 65歳以上…300円 ④運営人数: スタッフ5名とボランティアスタッフ4名(交代) ⑤提供食数: 1日約50人分 ⑥食材費: 寄付と食材の提供 ※フードバンクはいつ届くか不明なので使用していない。 ⑦運営費: 寄付と協賛で実施 ⑧こどもへの周知: 近隣の小学校3校へチラシを配布</p> <p>(3)始めたきっかけについて もともと元気な高齢者の方を中心とした地域交流施設を運営していて、そこに学校帰りのお子様連れの方や小中学生がお店によく来て、子どもと高齢者の交流が楽しげで、子どもと高齢者の世代を超えた交流の場所、居場所になればいいなと思い始めたとのことであった。</p>

	<p>(4)活動内容・特徴について</p> <p>地域交流の場所として運営していたので、子どもと高齢者の方たちが世代を超えて交流ができ、今では少なくなってきた世代間交流の温かい雰囲気です。運営し、高齢者が作った手作り作品を子どもにあげたり、遊び方を教えてもらったりしているとのことであった。また、子ども食堂を始めてから、全世代が楽しめる「居場所」になっているとのことであった。</p> <p>(5)運営状況について</p> <p>ボランティアハウスぽかぽかでは、月曜日から金曜日の 10:00～18:00 まで食堂とカフェの営業と情報交換の場として子どもから高齢者まで開放を行っているが、現在は店に入りきれないほどの子どもが来ている。</p> <p>また、寄付と協賛で運営していることから、毎月の収支状況をホームページ等で公表しているとのことであった。</p> <p>2016年2月オープンで、始めた頃は本当に必要な子どもたちに情報が行き渡っていないのではないかと考えていたが、まずは間口を広げたくさんの人たちに利用してもらい、そこから本当に必要な子どもたちにも情報が伝わっていければとの思いで、試行錯誤しながら運営してきているとのことであった。</p>
<p>感想（まとめ） 本市へ生かせること 等</p>	<p>貧困の子ども達に手を差し伸べようと、全国で開催されてきている「子ども食堂」について、室蘭市内で開設される場合に、運営や周知の方法等の内容について参考になった。また、今回の視察先については、一般社団法人になっていることなど、それぞれの地域で開設されている子ども食堂については、食材費の調達や保険料、スタッフなどが同一ではないことを理解した。しかし、子ども達への温かいまなざしは同じであり、周知するためのチラシの文章内容についても、子どもや親（保護者）の意見や気持ちを考え、試行錯誤しながら進めているとのことであったが、基本的に子どもたちが来てくれるため、そして必要としている子どもたちが来てくれるための周知、さらに居場所づくりについてしっかりと考えていかなければならないと感じた。</p>